

仏と二人　　く供養は大切な行持なりく

加茂法話会　令和二年八月十九日

一、『佛祖の大道、かならず無上の行持あり、道環して断絶せず、發心・修行・菩提・涅槃、

しばらくの間隙かんげきあらず、行持道環なり。

このゆゑに、みづからの強為ごういにあらず、

佗の強為にあらず、不曾染汚ふぞうぜんなの行持なり。』

正法眼蔵「行持上」

二、道元禪師の行持　　持：たもつ、持続する

① 証りは一回だけではない。繰り返ししていく。發心、修行、菩提（証り）、涅槃を繰り返して繰り返していく。

② 自らがばんばって無理して行うわけでもないし、他人から強いられたのでもない。

③ 思惑をもって打算的にやるのでもない。健康になりたいとか、利益を求めてやることではない。純粹な行い。吾我名利を求めない。

④ 効果がないとやめてしまう。止めてしまうのは、求めているから。例えば、証りを求めて坐禅をして、なかなか証りが得られないのでやめてしまう。それは、打算的だったから。

決してやめてしまわないのが行持である。

三、『いそぎわがいのちの存せる光陰を、むなくすごさず供養したてまつるなり。

たとひ金銀なりとも、ほとけの御ため、なにの益かあらん。

たとひ香華なりとも、またほとけの御ため、なにの益かあらん。

しかあれども、納受せさせたまふは、衆生をして功德を増長せしめんための大慈大悲なり。』

正法眼蔵「供養諸仏」

東龍寺住職　渡邊宣昭　合掌